

平成20年度全国高等学校総合体育大会バスケットボール大会  
第61回全国高等学校バスケットボール選手権大会

彩夏到来 08 埼玉総体



平成20年7月29日(火) 一回戦

Bコート 第1試合 深谷総合体育館(深谷ビッグタートル)

チームA				チームB
県立日川	62	$\left. \begin{array}{l} 7 - 38 \\ 24 - 31 \\ 16 - 30 \\ 15 - 30 \end{array} \right\}$	129	県立能代工業
山梨				秋田

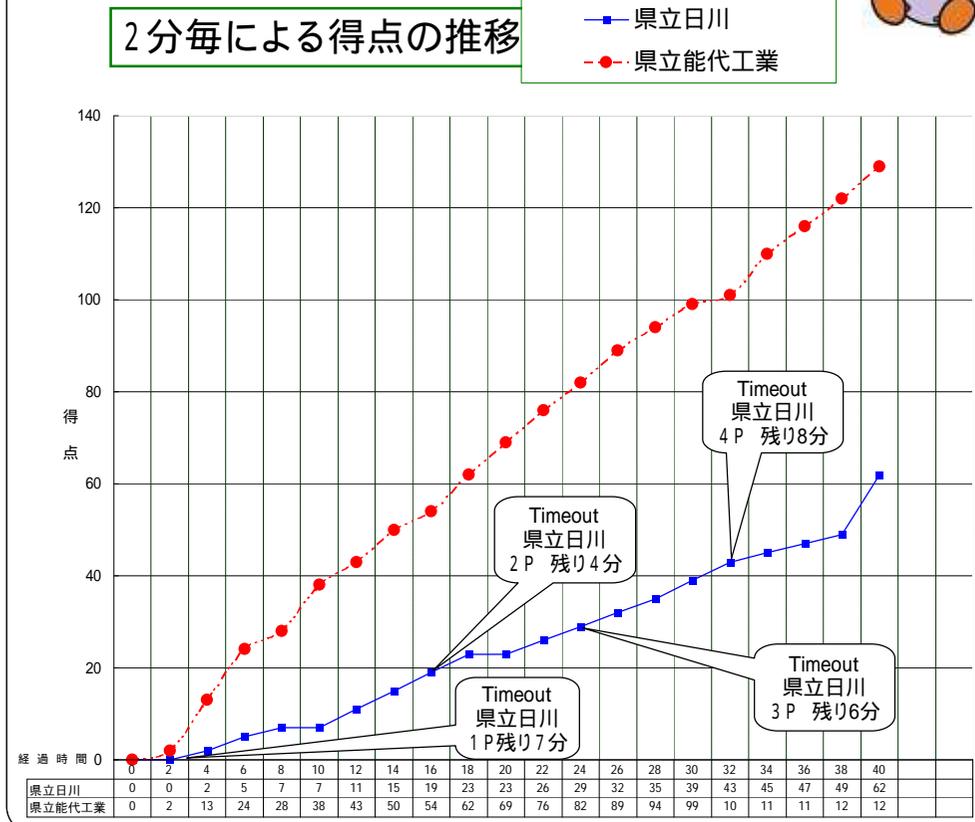
県立日川

番号	氏名	出場	得点	3P		2P		FT		反則	リバウンド		TO	ST	AS	BS	出場時間 単位:分
				成功	試行	成功	試行	成功	試行		OF	DF					
4	古屋 貴弘	X	15	1	6	5	9	2	3	1	0	1	3	2	1	0	28
5	渡邊 陽輝	/	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	3
6	飯塚 勇介	X	8	0	1	4	6	0	0	4	5	1	3	0	1	0	21
7	清水 恭平	X	0	0	0	0	0	0	0	3	1	0	2	0	2	0	25
8	一瀬 裕太	X	10	0	3	5	15	0	0	0	0	2	0	0	1	0	22
9	石原 千幹	/	4	0	0	2	5	0	0	1	1	1	1	2	3	0	19
10	林 秀亮	/	0	0	2	0	3	0	0	0	0	0	2	0	1	0	12
11	坂本 達哉	/	3	1	3	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	7
12	名取 秀	X	2	0	2	1	1	0	0	3	0	0	1	1	0	0	21
13	古屋 卓人	/	2	0	1	1	2	0	0	0	0	1	0	1	0	0	8
14	逆瀬川 浩志	/	11	1	5	3	7	2	2	2	0	0	2	1	3	0	12
15	中村 椋耶	/	7	0	0	3	9	1	1	2	1	2	0	0	0	1	22
コーチ	古田 厚司									0	0	0					
出場: ×は先発、/は出場	62	3	23	24	58	5	6	17	9	9	15	7	12	1			200
確率		13.0%		41.4%		83.3%					計	18					

県立能代工業

番号	氏名	出場	得点	3P		2P		FT		反則	リバウンド		TO	ST	AS	BS	出場時間 単位:分
				成功	試行	成功	試行	成功	試行		OF	DF					
4	高橋 陽	X	8	0	0	4	4	0	0	1	4	2	2	3	2	0	20
5	武藤 修平	X	11	0	0	5	7	1	2	1	2	6	1	0	1	1	17
6	館山 健太	X	15	2	2	4	6	1	1	0	0	1	1	0	2	2	19
7	飯田 啓人	X	18	2	5	5	5	2	2	1	1	7	0	2	3	1	21
8	宮城 大喜	/	4	0	1	2	3	0	0	0	0	4	2	0	5	0	15
9	湊 大樹	X	11	1	4	4	5	0	0	0	0	1	1	0	0	0	17
10	小川 昌志	/	14	0	0	5	12	4	4	2	3	4	4	0	0	0	19
11	藤田 洸	/	13	0	0	6	7	1	2	0	2	4	1	1	0	1	14
12	伊藤 伸高	/	20	6	8	0	1	2	2	0	0	2	1	0	2	0	18
13	保坂 健太	/	1	0	0	0	0	1	2	1	0	1	2	0	2	0	14
14	廣江 翔平	/	2	0	2	1	4	0	0	1	0	0	1	0	0	0	12
15	西島 宏哉	/	12	0	0	5	6	2	3	2	2	2	1	1	0	1	14
コーチ	佐藤 信長									0	1	4					
出場: ×は先発、/は出場	129	11	22	41	60	14	18	9	15	38	17	7	17	6			200
確率		50.0%		68.3%		77.8%					計	53					

2分毎による得点の推移



戦評

新生能代工業と粘り強いディフェンスが持ち味の日川の対戦が深谷会場のオープニングゲームとなった。第1P、両チームハーフコートマンツーマンディフェンスでスタート。日川は立ち上がりから能代工業のディフェンスを攻めきれない。対する能代工業は、ディフェンスからの速攻、ミスマッチを確実につけたオフェンスで得点を重ねる。開始4分、13対2で能代工業リード。日川はタイムアウトをとるも流れは変わらず38対7と点差が広がってしまう。第2P、日川はディフェンスをフルコートの2-2-1ゾーンプレスからハーフコート2-3マッチアップゾーンにかえ、仕掛けるとともに#8一瀬のシュートなどで対抗するも、69対31と大差での折り返しとなった。第3P、日川はゾーンプレスからハーフコートのマッチアップゾーン。攻めでは#6飯塚のシュート、1年生の#15中村はインサイドの攻めを頑張るもなかなかペースをつかめない。第4P、両チームとも交代が多くなったが、試合の流れは変わらない。高さで速さでひとまわり相手を上回る能代工業が、粘り強いハーフコートマンツーマンディフェンスと正確なプレイで日川を圧倒するかたちとなった。

主審	宮本 和徳	副審	佐佐木 達哉	戦評	長原 康 (埼玉県高体連)
----	-------	----	--------	----	---------------

3P: スリーポイントシュート、2P: 2ポイントシュート、FT: フリースロー、OF: オフェンス、DF: ディフェンス、TO: ターンオーバー、ST: スティール、AS: アシスト、BS: ブロックショット